

102 五輪塔群



指 定 市有形文化財 昭和47年8月1日
 所在地 塩名田
 所有者 塩名田区



塩名田の南が丘の落葉松林のなかに、塩名田区の共同墓地がある。その中央に、大小25基ほどの五輪塔が安置されている。しかし、この五輪塔群はもとからこの地にあったものではなく、明治6年（1873）に廃寺となった長寿寺の境内にあったものだという。

明治12年（1879）6月付けで、塩名田村の佐藤彦市ほか5名から長野県令樋崎寛直へ提出した塩名田村誌に、

〔京極山長寿寺廃址〕境内官有地、東西十七間、南北二十間三尺面積一反一畝十八歩
 真言宗京都府下六波羅普門院の末派なり。村の南裏にあり。創立年月不詳。中興開山
 僧什英。除地高六石一斗四升。維新の際上知す。無檀・無住によりて、明治6年廃寺、
 学校となる。里老伝曰、文治中、佐藤長寿丸なる者、奥州より來り此處に歿す。里人
 其為一寺を創建して、長寿寺と号し、其墓とて高五尺余の大五輪一基あり、其他五輪
 石墨々たり。

とある（『長野県町村誌』）東信篇）。これによれば、長寿寺は、文治（1185～89）年中に奥州から塩名田へやってきた佐藤長寿丸を祀った寺で、大五輪塔の一つはその墓ということになる。しかし、長寿丸についても、長寿寺についても、いまこれ以上わからない。ただ、多数の五輪塔があり、近くに海戸田（海戸は、豪族などの屋敷や所有地を意味する
 垣内であろう）という地名があることからすると、中世にこの地に豪族が住んでいたことはまちがいないと推測されている。